

株式会社モリタ 2025 年度歯科健診結果報告

2026 年 6 月 28 日

報告者 4 階歯科診療所 歯科医師 前田 憲一郎
歯科衛生士 木村 眞依子 大畑 有紀

1. はじめに

2021 年度より、う蝕や歯周疾患の見落とし防止、および健診者への説明の分かりやすさ向上を目的として、診療室のレントゲン撮影機を活用したパノラマレントゲン撮影を実施している。

2. 全体報告

2.1. 健診対象者 男性 70 名、女性 55 名、合計 125 名。

2025年度			
受診総数	125		
男性	70		
女性	55		
年齢		男性	女性
20代	12	4	8
30代	25	14	11
40代	33	16	17
50代	39	22	17
60代	15	13	2
70代	1	1	0
	125	70	55

	人数	平均年齢	喫煙者数	%	全口レントゲンあり	%	う蝕本数	1人平均	平均処置歯数	平均残存歯数	う蝕のある人	%	処置歯の無い人	%
全体	125	48.4	21	16.8	99	79.2	38	0.30	9.1	27.7	24	19.2	8	6.4
男性	70	44.0	19	27.1	47	67.1	29	0.41	9.5	27.7	18	25.7	3	4.3
女性	55	46.5	2	3.6	52	94.5	9	0.16	8.7	27.7	6	10.9	5	9.1

(%)	ブラッシング回数			補助清掃道具使用					ブラッシング時の注意				
	3回以上	2回	1回	使用	歯間ブラシ	フロス	両方	不使用	ブラッシング時の注意	つまる	口臭	はぎしり	顎関節
全体	69 (55.2)	53 (42.4)	3(2.4)	106 (84.8)	84 (67.2)	50 (40.0)	28 (22.4)	19 (15.2)	33 (26.4)	101 (80.8)	41 (32.8)	47(37.6)	29 (23.2)
男性	27 (38.6)	41 (58.6)	2(2.9)	56 (80.0)	40 (57.1)	30 (42.8)	14 (20.0)	14 (20.0)	22 (17.6)	53 (75.7)	27 (38.6)	22 (31.4)	10 (14.3)
女性	42 (76.4)	12 (21.8)	1(1.8)	50 (90.9)	44 (80.0)	20 (36.4)	14 (25.5)	5 (9.1)	11 (20.0)	48 (87.3)	14 (25.5)	25 (45.5)	19 (34.5)

2.2. 受診者の状況

本年度は男性 70 名、女性 55 名が受診した。受診者の平均年齢は男性 44.0 歳、女性 46.5 歳であった。

- **かかりつけ歯科医院での定期チェック受診率:**
- モリタ社員におけるかかりつけ歯科医院での定期チェック受診率は全体で 79.2%であり、日本の職場や自治体の平均歯科健診受診率 48.6%(2024 年日本歯科医師会 歯科医療に関する生活者意識調査)を大きく上回った。男性は 67.1%、女性は 94.5%であった。
- **う蝕本数:**
 - 1 人平均のう蝕本数は、男性が 0.41 本、女性が 0.16 本であった。
- **う蝕のある人の割合:**
 - 全体で 24 名(19.2%)にう蝕が認められた。男性では 18 名(25.7%)、女性では 8 名(10.9%)であった。
- **処置歯のない人の割合:**
 - 全体で 8 名(6.4%)に処置歯を認めなかった。男性が 3 名(4.3%)、女性が 5 名(9.1%)であった。
- **喫煙率:** 女性の喫煙率は 2.6%で、全国平均(6.5%(2023 年「国民健康・栄養調査」*)を大きく下回った。男性は 27.1%で、全国平均(24.5%「令和 6 年歯科疾患実態調査」*)を上回った。

3. 年代別報告

モリタ社員 年代別男性喫煙率

		モリタ		日本平均*1
男性		喫煙者数	%	%
20代	4	3	75.0	20.6
30代	14	0	0.0	29.9
40代	16	4	25.0	33.4
50代	22	8	36.4	31.5
60代	13	3	23.1	28.5
70代	1	1	100	14.2

モリタ社員 年代別女性喫煙率

		モリタ		日本平均*1
女性		喫煙者数	%	%
20代	8	0	0.0	5.2
30代	11	1	9.1	8.7
40代	17	0	0.0	10.1
50代	17	1	5.9	11.7
60代	2	0	0	7.1

モリタ社員の喫煙率は、男性の 20 代と 50 代で日本人平均より高かった。

3.2. 1 人平均現在歯数

1人平均歯数						
	モリタ社員			日本平均 ^{*2}		
年齢	全体	男	女	全体	男	女
20~24	27.0	26.0	28.0	28.5		
25~29	27.2	28.0	26.9	28.4		
30~34	28.1	28.2	28.0	28.1		
35~39	27.9	27.9	27.8	28.0		
40~44	28.2	27.7	29.0	28.1	28.4	27.6
45~49	28.1	28.6	27.8	27.9	27.8	27.7
50~54	28.1	28.6	27.4	27.4	25.8	26.9
55~59	27.0	26.4	27.7	27.0	26.8	26.2
60~64	27.5	27.3	28.0	25.7	23.5	25.9
65~69	26.0	26.0	-	23.4	23.7	23.9
70~74	26.0	26.0	-	21.3	23.7	23.9

モリタ社員の1人平均現在歯数は、45歳から54歳までの間の男性で平均をわずかに下回ったものの、それ以外の年代では上回った。

3.3. 処置歯のない者の割合

処置歯の無い者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20~24	0.0	34.2
25~29	30.0	28.3
30~34	18.2	20.7
35~39	7.1	5.5
40~44	9.1	2.8
45~49	0.0	3.4
50~54	6.9	1.1
55~59	0.0	0.8
60~64	0.0	0.2
65~70	0.0	2.5

処置歯のない者の割合は、25~29歳、35~39歳、40~44歳、50~44歳の年代で全国平均を上回った。

3.4. 未処置のう蝕を有する者の割合

未処置のう蝕を有する者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20~24	0.0	17.0
25~29	10.0	25.0
30~34	18.2	20.2
35~39	14.2	23.6
40~44	18.2	29.7
45~49	17.4	19.9
50~54	20.8	31.0
55~59	20.0	23.9
60~64	27.3	35.9
65~70	50.0	30.3

60～69 歳の層で未処置のう蝕を有する者の割合が日本平均を上回った。それ以外の年代層では平均を下回った。

3.5. DMF 歯数

DMF歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
~24	5.0	2.8
25~34	4.9	5.3
35~44	8.4	9.2
45~54	11.2	12.6
55~64	14.5	15.9
65~74	16.5	18.1

25 歳以上の DMF 歯数は日本平均を下回った。

3.6. 喪失歯所有者率

喪失歯所有者率(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20~24	50.0	0.5
25~29	30.0	0.9
30~34	9.1	8.6
35~39	21.4	9.9
40~44	18.2	16.6
45~49	26.1	26.0
50~54	25.0	32.8
55~59	53.3	42.6
60~64	54.5	60.3
65~70	100.0	74.4
70~74	100.0	81.9

喪失歯所有者率は 50~54 歳、60~64 歳で平均より良好な数値であった。

3.7. 1 人平均喪失歯数

1人平均喪失歯数(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20~24	1.0	0.0
25~29	1.2	0.0
30~34	0.1	0.1
35~39	0.4	0.2
40~44	0.2	0.4
45~49	0.5	0.5
50~54	0.4	1.0
55~59	1.3	1.3
60~64	1.6	2.7
65~70	2.5	4.7
70~74	2.0	6.7

1 人平均喪失歯数は 40 歳以上で平均と同等又はそれ以下であった。

3.8. 各補綴物の装着者の割合(%)

各補綴物の装着者の割合(%)								
年齢	モリタ				日本平均 ^{*2}			
	総数	ブリッジ	義歯	インプラント	総数	ブリッジ	義歯	インプラント
20~24	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0
25~29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0
30~34	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	3.2	2.8	0.0
35~39	7.1	7.1	0.0	0.0	6.4	5.9	0.8	0.4
40~44	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	12.6	1.4	0.0
45~49	12.9	0.0	8.6	4.3	17.1	11.8	0.8	3.9
50~54	16.8	8.4	4.2	4.2	24.3	20.1	5.9	0.6
55~59	33.3	26.7	6.7	0.0	32.1	28.5	4.5	2.3
60~64	27.2	27.2	0.0	0.0	43.2	35.1	12.8	2.3
65~69	75.0	75.0	25.0	0.0	64.4	48.2	25.9	6.2
70~74	0.0	0.0	0.0	0.0	70.8	50.3	43.7	4.3

欠損補綴物の装着の割合は 35～39 歳、55～59 歳、65～69 歳の年代において上回った。ブリッジの装着割合は 35～39、65～69 歳の年代で高かった。インプラント補綴の割合は 45～49、50～54 歳の年代で高かった。45～59 歳での義歯装着割合は日本平均を上回った。

3.9.1 現在歯の状況(8020 達成者等)

20本以上歯を有する者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
45~49	100.0	99.7
50~54	100.0	97.8
55~59	93.3	97.3
60~64	100.0	91.5
65~70	100.0	82.7
70~74	100.0	72.1

55～59 歳以外の年代において 20 本以上歯のある者の割合は平均を上回った。

3.10. 歯周ポケットの状況

歯周ポケットを有する者の割合 (%)						
	モリタ			日本平均 ^{*2}		
年齢	総数	4mm以上5mm未満	6mm以上	総数	4mm以上5mm未満	6mm以上
20~24	50.0	50.0	0.0	26.4	25.8	0.6
25~29	50.0	50.0	0.0	24.4	23.6	0.8
30~34	54.5	54.5	0.0	27.2	27.2	0.0
35~39	57.1	57.1	0.0	27.4	19.9	7.5
40~44	45.4	45.4	0.0	28.6	23.7	4.9
45~49	52.2	34.8	17.4	41.4	34.1	7.3
50~54	87.5	70.8	16.7	44.4	36.2	8.3
55~59	80.0	53.3	26.7	54.0	40.9	13.1
60~64	81.8	54.5	27.3	59.1	41.7	17.4
65~69	100.0	25.0	75.0	54.0	39.8	14.2
70~74	100.0	0.0	100.0	58.0	41.8	16.2

モリタ社員はどの年齢層においても 4mm 以上のポケットを有する者の割合が高く、また 6mm 以上の深いポケットを有する者の割合も高かった。

3.11. 歯肉出血を有する者の割合

歯肉出血を有する者の割合 (%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20~24	50.0	41.5
25~29	20.0	41.5
30~34	27.3	38.7
35~39	21.4	40.1
40~44	18.2	39.5
45~49	13.0	44.4
50~54	20.8	49.5
55~59	13.3	47.2
60~64	18.2	41.4
65~70	75.0	46.9
70~74	100.0	100.0

モリタ社員は歯肉出血を有する者の割合が 24~64 歳において平均を下回った。

3.12. 1 日のブラッシング回数

ブラッシング回数/1日	0 回	1 回	2 回	3 回	2 回以上
モリタ社員全体(%)	0	2.4	42.4	55.2	97.6
モリタ社員男性(%)	0	2.9	58.6	38.6	97.1
モリタ社員女性(%)	0	1.8	21.8	76.4	98.2
日本平均(%)	1.6	15.7	50.5	31.1	81.6

モリタ社員のブラッシング時間

ブラッシング時間	1分	2分	3分	5分	10分	15分以	20分以上	無回答
モリタ社員全体(%)	0.0	5.6	22.4	40.0	16.0	4.8	0.0	11.2

モリタ社員は男性、女性ともに 2 回以上ブラッシングをしている者の割合が日本平均を大きく上回った。モリタ社員の大部分がブラッシング時間を 3 分以上とっていた。

3.13. 清掃補助具使用率

補助器具使用率				
	モリタ社員		日本平均 ^{*2}	
年齢	男	女	男	女
20~24	—	100.0	22.9	49.7
25~29	33.3	100.0	38.8	52.7
30~34	80.0	66.7	43.8	70.1
35~39	88.9	100.0	47.3	71.3
40~44	85.7	75.0	55.4	68.5
45~49	88.9	100.0	46.8	69.8
50~54	85.7	91.7	49.8	68.9
55~59	100.0	85.7	47.8	75.6
60~64	55.6	100.0	45.2	64.8
65~69	100.0	-	50.2	70.2
70~74	100.0	0.0	49.4	71.0

清掃補助器具（デンタルフロスまたは歯間ブラシ）の使用率は、男性は 25～29 歳，女性 は 30～34 歳の年代以外で日本平均を大きく上回っていた。

4. 唾液検査結果報告

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
ライオン平均	37	43	36	49	43	53
全体	41.3	49.1	16.9	67.5	57.8	39.7
男性	43.3	48.4	18.3	71.3	59.4	41.3
女性	38.6	50.0	15.1	62.7	55.7	37.7

う蝕へのリスクは酸性度が高く緩衝能は高い傾向が見られた。歯肉の炎症度合いを示す白血球とタンパク質の値は男女ともに高く、アンモニアの値は低かった。

4.1. 年代別唾液検査報告

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
ライオン平均	37	43	36	49	43	53
20代男性	42.0	53.0	5.8	61.0	36.3	23.5
20代女性	37.3	57.9	12.0	68.3	57.3	42.8
30代男性	41.1	42.9	8.6	77.2	53.5	40.3
30代女性	38.6	44.4	17.5	60.5	51.9	37.0
40代男性	42.0	43.5	20.5	70.8	56.6	41.8
40代女性	39.7	53.5	14.9	66.1	56.9	36.2
50代男性	37.4	54.8	16.9	66.6	62.2	44.5
50代女性	40.5	47.8	16.4	61.3	57.9	37.4
60代男性	56.8	52.1	27.9	75.2	71.5	43.8
60代女性	18.0	39.5	5.5	35.0	43.0	36.0
70代男性	59.0	0.0	76.0	94.0	63.0	12.0

虫歯菌は 60 代の女性の数値が低く、60 代以上の男性で高かった。酸性度は 20 代と男性では 50 代と 60 代、女性では 40 代が高かった。緩衝能は全体的に高い数値を示した。白血球は 60 代以上女性以外で数値が高かった。タンパク質は 20 代男性と 60 代女性以外で数値が高かった。アンモニアは全体的に平均を下回っていた。

5. かかりつけ歯科医院を持つ者とそうでない者の解析

						ポケット				
かかりつけ歯科医院	人数	現在歯数	欠損歯数	処置歯数	未処置のう蝕	～3mm	4～6mm	6mm～	4mm以上の歯数	出血
あり	92	28.0	0.6	9.3	0.2	29%	49%	22%	5.9	22%
なし	33	26.9	1.3	8.9	0.5	18%	46%	36%	9.3	24%

唾液検査にて解析

かかりつけ歯科医院	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
あり	33.3	58.7	23.2	64.1	54.3	37.6
なし	38.8	58.2	27.1	75.5	64.3	39.9

現在歯数、欠損歯数、未処置のう蝕の数はいずれも、かかりつけ歯科医院のある者の方が良好な数値であった。また、歯周ポケットの深さ、深いポケットの歯数、かかりつけ歯科医院のある者の方が優れた数値であった。唾液検査では、かかりつけ歯科医院のある方が歯肉の炎症の数値を示す白血球とタンパク質の数値が低い値を示した。

6. 喫煙者と非喫煙者間の解析

						ポケット				
	人数	現在歯数	欠損歯数	処置歯数	未処置のう蝕	～3mm	4～6mm	6mm～	4mm以上の歯数	出血
喫煙者	21	27.9	0.7	8.1	0.2	38%	57%	5%	4.7	38%
非喫煙者	104	27.7	0.8	9.3	0.3	29%	55%	16%	9.3	26%

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
喫煙者	46.9	48.7	19.0	65.0	52.8	42.0
非喫煙者	40.1	49.2	16.5	68.0	58.8	39.2

喫煙者と非喫煙者では今回現存歯数等に差はなく、処置歯数は非喫煙者に多かった。また歯周ポケットでは 6mm 以上のポケットの歯数、4mm 以上の歯数、いずれも非喫煙者の方が多かった。歯茎からの出血は喫煙者の方が多かった。唾液検査では喫煙者で虫歯菌の数値が悪い数値を示した。

7. 口腔軟組織健診

口腔がんの疑いのあるものは認められなかった。

8. その他(生活習慣などに関するもの)

歯科健診の頻度

健診頻度	1~3ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月	なし
%	1.6	27.2	29.6	19.2	22.4

使用している歯磨剤(複数回答可)

歯磨剤	チェックアップ	ブリリアント	ハグキプラス	システマ	SPT	その他
	63	20	14	8	7	8

食事頻度

食事頻度	1回	昼夕2回	朝昼夕3回	間食
	2	21	102	42
決まった時間	0	9	85	

よく口にするもの(複数回答可)

よく口にするもの				
コーヒー	お菓子	お茶	水	その他
74	26	33	8	7

運動頻度

運動頻度					
毎日	週3~4回	週1~2回	月1~2回	しない	無回答
8	11	45	23	36	1

- ・ **歯科健診の頻度:** 歯科健診の頻度は3ヶ月か半年毎が多かった。
- ・ **使用している歯磨剤(複数回答可):** 「チェックアップ」の使用率が高く、次いで「ブリリアント」の使用が多く認められた。
- ・ **食事頻度:** 1日3回、決まった時間に食事をとる人が多かった。
- ・ **よく口にするもの:** コーヒーとお茶を摂取する人が多かった。
- ・ **運動頻度:** 週1~2回が多かった。

10. 考察

10.1. 全体的な口腔内状況：

今年度は診療室フロアの改修工事の影響により、受診者数は減少した。一方で、受診者の口腔内状況は全体として非常に良好であると考えられる。平均現在歯数はほぼ 28 本を維持しており、平均喪失歯数は日本平均*2 を下回っていた。義歯やブリッジ等の欠損補綴を装着している者は少ないが、歯の欠損が生じた場合にも放置せず、適切に補綴処置を受けていることがうかがえる。

DMF 歯数は日本平均と大きな差はみられなかったものの、未処置う蝕を有する者の割合は低かった。このことから、これまで実施してきた歯科健診や、かかりつけ歯科医での継続的な管理が、う蝕の早期発見・早期治療につながっているものと考えられる。

また、口腔健康に対する意識も高く、ブラッシング回数、歯間ブラシやデンタルフロスの使用率はいずれも国民平均*2 を大きく上回っていた。さらに、かかりつけ歯科医を有する者の割合も一般より高く*2、かかりつけ歯科医を持つ者の方が、持たない者に比べて多くの項目で良好な結果を示していた。これらのことから、今後も定期的な歯科健診の受診ならびに、かかりつけ歯科医の活用を一層促進していくことが望まれる。

10.2. 歯周組織の課題と改善点

一方、歯周組織の状態については、歯周ポケットの深さにおいて国民平均*2 よりも不良な数値がみられた。ただし、当診療室では全部位を対象に精密な計測を実施しているため、一般的な健康調査よりも詳細な評価結果が反映されている可能性がある。

また、歯肉出血の数値は比較的良好であったことから、歯肉の炎症は一定程度コントロールされていると考えられる。すなわち、歯周病を有する者が一定数存在する一方で、その多くは適切な管理により進行抑制が図られている可能性が高い。これには、かかりつけ歯科医院での継続的な管理や、社内で実施しているスケーリングの効果が寄与していると考えられる。

今後は、歯周ポケットの深さの改善に向け、セルフケアの質の向上に加え、定期的な専門的口腔管理の継続をさらに推進していく必要がある。

10.3. 喫煙率と今後の課題

喫煙率は多くの年代で国民平均*1を下回っており、一定の改善傾向が認められた。一方で、健康に携わる企業としては、さらなる低下が望まれる。

喫煙は歯周病の代表的なリスクファクターの一つであるが、今回の健診では、喫煙者において非喫煙者より明らかに不良な値がみられたのは歯肉出血であった。この結果には、喫煙者に20代が多く含まれていたことも影響している可能性がある。すなわち、現時点では若年層であることにより喫煙の影響が顕在化しにくいものの、今後の加齢とともに歯周組織への悪影響がより明確になることも懸念される。

喫煙にはストレス対処としての側面もあると考えられるため、その点に配慮しつつ、禁煙に代わるストレス対処法の提案や支援体制の整備を進め、禁煙援助を継続していくことが望ましい。

10.4. 総括

今年度は診療室フロアの改修工事の影響により受診者数は減少したものの、受診者の口腔内状況は全体として良好であった。平均現在歯数や平均喪失歯数、未処置う蝕の割合、セルフケア行動、かかりつけ歯科医の保有状況などから、従業員の口腔健康に対する意識は着実に向上していると考えられる。特に、かかりつけ歯科医院を持つ者で良好な結果が多く認められたことは、継続的な歯科受診の重要性を示す所見といえる。

一方で、歯周組織の状態については引き続き課題がみられ、歯周ポケットの深さの改善に向けた取り組みが必要である。また、喫煙率は国民平均を下回る年代が多く改善傾向を示したものの、歯周病予防の観点からはさらなる低下が望まれる。

今後も、定期健診の受診促進、かかりつけ歯科医の活用推進、歯周病予防に向けた専門的管理およびセルフケア支援、さらには禁煙支援を継続することで、従業員の口腔健康の維持・向上を一層図っていくことが重要である。

11. 経年変化

11.1 対象者

2022年度			2023年度			2024年度			2025年度		
受診総数	181		受診総数	159		受診総数	150		受診総数	125	
男性	107		男性	82		男性	84		男性	70	
女性	74		女性	75		女性	66		女性	55	
年齢分布			年齢分布			年齢分布			年齢分布		
20歳代	19		20歳代	19		20歳代	14		20歳代	12	
30歳代	37		30歳代	28		30歳代	28		30歳代	25	
40歳代	60		40歳代	47		40歳代	47		40歳代	33	
50歳代	52		50歳代	52		50歳代	48		50歳代	39	
60歳代	12		60歳代	11		60歳代	13		60歳代以上	16	
年齢分布	181		年齢分布	157		年齢分布	150		年齢分布	125	
2021	男性	女性	2021	男性	女性	2021	男性	女性	2021	男性	女性
20歳代	10	9	20歳代	7	12	20歳代	7	7	20歳代	4	8
30歳代	22	15	30歳代	15	13	30歳代	17	11	30歳代	14	11
40歳代	27	33	40歳代	19	28	40歳代	20	27	40歳代	16	17
50歳代	38	14	50歳代	31	21	50歳代	27	21	50歳代	22	17
60歳代	10	2	60歳代	10	1	60歳代	13	0	60歳代	14	2
	107	73		82	75		84	66		70	55

- 今年度の受診者は前年度よりやや減少した。

11.2 かかりつけ歯科医を持つ年代別割合

年代ごとのかかりつけ歯科医%											
	2021		2022		2023		2024		2025		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20歳代	38%	50%	70%	89%	71%	83%	86%	86%	100%	88%	
30歳代	50%	67%	64%	87%	73%	76%	71%	91%	71%	91%	
40歳代	42%	60%	67%	70%	63%	85%	70%	89%	63%	88%	
50歳代	43%	45%	45%	79%	58%	85%	52%	81%	64%	94%	
60歳代	45%		70%	50%	80%	100%	62%		64%	100%	

- 2025 年度は多くの年代においてかかりつけ歯科医を持つ割合が過去最高であった。一方、40 代男性では低下した。

11.3う蝕

	2021	2022	2023	2024	2025
1 人あたりう蝕の数	0.46	0.48	0.35	0.32	0.30

- 1 人あたりのう蝕の数は 2024 年度において減少し、過去最低の数であった。

11.4 喫煙率:

喫煙率	2021	2022	2023	2024	2025
全体	18%	19%	17%	15%	17%
男性	27%	30%	29%	24%	27%
女性	7%	3%	3%	3%	4%

喫煙率は昨年度より微増した。

11.6 唾液検査:

	人数	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
	ライオン平均	37	43	36	49	43	53
全体2025	125	41	49	17	68	58	40
全体2024	150	35	59	24	67	57	38
全体2023	157	31	77	19	68	52	44
全体2022	180	32	61	26	68	54	43
全体2021	166	36	57	29	67	56	46
全体2020	188	26	52	31	67	54	39
男性2025	70	43	48	18	71	59	41
男性2024	84	40	56	27	72	59	39
男性2023	82	33	74	23	73	56	47
男性2022	107	35	63	28	72	57	45
男性2021	103	44	60	32	90	74	45
男性2020	117	28	51	34	70	57	42
女性2025	55	39	50	15	63	56	38
女性2024	66	28	62	21	60	54	38
女性2023	75	30	80	15	62	47	41
女性2022	73	27	59	23	62	50	41
女性2021	63	31	59	28	58	45	51
女性2020	71	23	55	25	64	51	35

※赤字は前年より悪化、青字は改善

- 唾液検査の前年との比較では、男性において緩衝能の数値が悪化したが、酸性度の数値の改善が認められた。
- 女性では緩衝能と虫歯菌の数値の悪化が認められたが、酸性度の数値は改善が認められた。
- 全体では酸性度の数値が改善し、緩衝能の数値が悪化した。

11.7 経年変化からの考察

受診者の増加、かかりつけ歯科医院を持つ人の割合が多く年代層で過去最高となり、1人あたりのう蝕の数も過去最低の数であり、口腔健康への意識改善が進んでいると考えられる。一方喫煙率は減少が見られているため、前述の考察で提案したように、さらなる改善が望まれる。

12. まとめ

現在、国民皆歯科健診の導入が検討されている中、当社がこれに先立ち社内で歯科健診を継続的に実施していることは、先見性のある取り組みであると考えられる。実際に、定期的に歯科医院を受診する従業員の増加や、口腔健康に対する意識の向上がみられており、歯科健診が社員の行動変容につながっていることがうかがえる。

また、健診を契機として、う蝕治療、親知らずの抜歯、歯周病治療など必要な対応につながった事例も認められており、歯科健診は口腔疾患の早期発見・早期治療に有効に機能している。加えて、口腔の健康保持は、従業員の健康増進のみならず、業務パフォーマンスの維持向上、生活習慣病予防、健康経営の推進にも資する重要な取り組みである。

さらに、歯科業界を牽引する当社において、社員の口腔健康管理を積極的に推進することは、企業姿勢を内外に示すうえでも意義が大きい。従業員の健康を大切にする企業としての信頼性向上、企業イメージの向上、採用面での魅力向上にもつながることが期待される。

一方で、今年度は受診者数の減少がみられており、歯科健診の効果をより高めるためには、より多くの従業員が受診できる体制づくりが重要である。現在受診が難しい従業員に対する受診機会の確保も含め、会社として受診勧奨への働きかけを一層進めていただくことが望まれる。新入社員への健診についても、早期から自身の口腔状態を把握し、健康意識を醸成するうえで重要であり、今後も継続的に実施する意義は大きい。

以上のことから、社内歯科健診は、従業員の健康保持増進、疾病の重症化予防、健康経営の推進、企業価値の向上に資する重要な施策であり、今後も継続・充実を図ることが望ましい。